平成30年度 行政評価事業別シート

		実計対象	■評値	西対象 ■	新規		完了事業		ゼロ予算事業		担当者	荻原幹子
		全体計画					経費区分		実施計画事業費	ĺ	内線	3352
事務	事業名	4112	健康増進	事業								
所	属	100600	健康福祉	上部・健康で	うくり課							
施	策	01010100	健康づく	りの充実								
予算	会計	01	一般会計	-								
科目	科目	040103	衛生費・	保健衛生費	・健康づ	くり	推進費					
作日	事業	020000	健康増進	事業								
事業	目的						事	業概	要・効果			
ſ	健康づく	くりの指標	となる	「第2次須坂	市健康づく	り言	†	「生	涯健康都市する	ぎか」	を目指し	、市民1人ひとりが
Ī	画」に割	基づき、保	健指導、	健康講座な	どを行い	、生	涯	Гέ	分の健康は、	自分で	でつくり守っ	る」ために健康増進
7	を通じて	て生活習慣	病予防を	主体的に実	践する市	民を	増	に関	わる事業を実施	もする	る。健康に	対する意識を持ち実
٦	やす。 践する市民を増やすことで、生涯にわたり健康で暮らせる須坂市を目指す。											

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
全地域公民館とおでかけ健康教室、健康まつりの開催	全地域公民館とおでかけ健康教室、健康まつりの開催
、食育事業の実施	、食育事業の実施
健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの	健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの
実施-須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツ	実施一須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツ
アー など	アー など
平成29年度 実績	平成30年度 予定
健康まつりの開催、食育事業の実施	健康まつりの開催、食育事業の実施
健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの	健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの
実施ー須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツ	実施一須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツ
アー 健康スムージーの普及など	アー、健康応援教室、健康スムージーの普及 など
平成31年度 予定	平成32年度 予定
健康まつりの開催、食育事業の実施	健康まつりの開催
健康長寿発信都市「須坂JAPAN」創生プロジェクトの	
実施一須坂エクササイズ出前講座、健康おすそわけツ	
アー、健康応援教室、健康メニューの普及、健康スム	
ージーの普及 など	

指	標名	「体重計にのろう」実践の表彰								
算	式	累計表彰者数								
年	度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32:	年度		
目標値		目標	358	394	430	466		500		
	1示 1世	実 績	368	382						
	標選定	生活習慣病予防を主体的に継続的に実践している指標として設定								
の	理由									
	終年度	26年度の実績を基に算出(年間36人表彰)								
	の根拠									
	標名									
算	式	<mark>単位</mark> 人								
年	度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32:	年度		
日	標値	目標								
		実 績								
	標選定									
	理由									
	終年度									
	の根拠									
	標名						W 11			
算	式		— baa	— Dag (— baa	- bar	単位	人		
年	度	- I	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32:	年度		
目	標値	目標								
		実 績								
	標選定									
	理由									
	終年度									
目標	の根拠									

事業費 (単位:千円)

T-74-74			(TE: 111)
		平成29年度	平成30年度
		決 算	予 算
事業費		20, 805	21, 803
	国庫支出金	3, 913	4, 575
特定	都道府県支出金	317	405
財 源	地方債	0	0
	その他	442	305
一般財源		16, 133	16, 518
人員数(人)	正規職員	2. 2	2. 2
	嘱託職員	2. 2	2. 9
	臨時職員	0.0	0. 1
	正規職員	15, 727. 8	15, 727. 8
人員	嘱託職員	6, 085. 2	8, 021. 4
コスト	臨時職員	0.0	117. 9
	計	21, 813. 0	23, 867. 1
市民一人当たりの経費		0.8	0.9
総額		42, 618. 0	45, 670. 1

(単位:千円)

7. +00 c c b b c c c b c c c c c c c c c c c							
平成29年度決算 事業費の内訳							
主な節	金額	内容					
8節 報償費	476	健康教室講師謝礼476					
11節 需用費	2, 648	健康教室、食育事業事務用品1,354 健康カレンダー、ウオーキングマップ印刷製本費1,294					
13節 委託費	37	尿中塩分測定検査37					
15節 工事請負費	0						
19節 負担金補助及び交付金	8, 154	健康まつり実行委員会負担金298 研修会負担金29、信州須坂健康スムージー推進協議会負担金7,827					
その他	9, 490	嘱託職員報酬5,016 共済費767 臨時職員賃金 2,782 旅費186 役務費434 バス借上料 305					

(単位:千円)

		(十年: 113)
	平月	或30年度当初予算 事業費の内訳
主な節	金額	内容
8節 報償費	861	健康教室講師謝礼136、創生プロジェクトセミナー等講師謝礼352、健康づくり講座謝礼373
11節 需用費	3, 168	健康教室・食育事業事務用品1,545、健康講座チラシ等531、健康カレンダ -951、ウオーキングマップ印刷製本費121
13節 委託費	80	尿中塩分測定検査
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	9, 790	健康まつり実行委員会負担金 研修会負担金、信州須坂健康スムージー推進協議会負担金
その他	7, 904	嘱託職員報酬 5,061 共済費781 臨時職員賃金3,715 旅費336 役務費627 使用料430

CHECK

CHECK						
	個別評価					
項目	評価観点	評価内容				
	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか					
	・行政内部の管理運営上必要な事業であるか					
必要性	・市が主体となり実施すべき事業か	高い				
	・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか					
	・目的は結果(施策の目指す理想)に結びついているか					
	市民1人ひとりが「自分の健康は自分でつくり守る」ための、健康増進に関わる事	業実施は必要である。第2				
評価	次健康づくり計画、第3期須坂市食育推進基本計画に基づき、生涯を通じて生活習慣病予防を主体的に取り組					
コメント	めるよう事業を実施している。					
コノント	須坂エクササイズ出前講座、健康応援教室の開催、健康スムージーの普及等を通じ、市民の皆さんが健康を意					
	識する機会を増やすよう取り組んでいる。					
	・事業の成果は上がっているか					
	・目標に対する達成度は十分か					
有効性	・市民生活上の課題解決に貢献しているか	有効				
	・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか					
	・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか					
	子どもの頃からの健康習慣は大切であり、食育、歯の健康等、保育園や小中学校と					
評価	る。第3期須坂市食育推進基本計画の策定にあたり実施したアンケートからは子ど	もの「毎朝朝食を食べる割				
コメント	合」に改善が見られた。					
	須坂産農産物を活用した「健康スムージー」の普及については、市内各飲食店と連携し、提供・販売する飲食					
	店が少しずつ増えてきた。					
	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか					
効率性	・効率性向上に努めているか	変わらない				
	・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか					
	ボランティアの育成、支援を行い、地域の方々の力を生かしながら事業を実施して					
評 価	健康スムージー事業については、地方創生推進交付金を活用し実施。また、健康ス					
コメント	いては市(協議会)で実施し、販売については、各飲食店等で自主的に継続してい	たたけるよう体制を整える				
	よう務めている。					

振り返り(決算年度の取組み課題)

第2次健康づくり計画の中間評価、第3期須坂市食育推進基本計画の策定を行い、今後も、子どもの頃からの生活習慣予防の必要性があり、親世代の若い世代が取組める健康づくりの取組みの検討が必要である。休日の健康応援教室での、子どもと一緒に参加できる教室には、若い方々の参加も見られた。

内部評価【二次】 4頁

ACTION

1次評価 2次評価

次年度以降の方向性 総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性 総合計画に沿って継続		
総合評価コメント	2次評価コメント		
子どもから高齢者まで健康づくりにつながるような仕	若者の健康意識が高まるよう現事業の実施・周知にエ		
組み、制度を現行事業を活かしながら検討する必要が	夫が必要		
ある。			

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	